

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	62199		飛騨にゆうかわイベント開催事業	担当課	丹生川支所 基盤産業課				内線
	番組								3131
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	○	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	6	商工費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	2	観光費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	1	観光振興費			D	その他事業		
	根拠計画		地域振興計画						
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客及び市民	対象者数	20,000 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・貴重な自然観光資源と豊富な農産物を活かし四季を通じたイベントを開催し、交流人口の増大と地域産業の活性化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・乗鞍岳山開き祭 ・飛騨にゆうかわコスモスまつり ・飛騨にゆうかわ宿篭まつり ・NORIKURAウィンターカーニバル の各事業実施団体への負担金		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績	・乗鞍山開き祭 ・飛騨にゆうかわコスモスまつり ・飛騨にゆうかわ宿篭まつり(夏まつり) ・飛騨にゆうかわ宿篭まつり ・NORIKURAウィンターカーニバル		5月15日 8月24日～9月8日 8月 3日 11月 3日 2月 1・2日	以上の実行委員会負担金を支出				
	指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26		
成果面	活動指標	開催イベント数	回	目標値 実績値	4 5	5 5	5 -	
	目標	算出根拠等		達成率(%)	125	100	-	
	成果指標	乗鞍岳山開き祭 入込人数	人	目標値 実績値	1,000 383	1,000 790	1,000 -	
	目標	算出根拠等		達成率(%)	38	79	-	
	成果指標	飛騨にゆうかわ宿篭まつり(夏まつり) 入込人数	人	目標値 実績値	4,000 4,000	4,000 5,000	4,000 -	
	目標	算出根拠等		達成率(%)	100	125	-	
	成果指標	飛騨にゆうかわコスモスまつり 入込人数	人	目標値 実績値	25,000 26,100	25,000 18,900	25,000 -	
	目標	算出根拠等		達成率(%)	104	76	-	
	成果指標	飛騨にゆうかわ宿篭まつり 入込人数	人	目標値 実績値	10,000 7,500	10,000 8,000	7,500 -	
	目標	算出根拠等		達成率(%)	75	80	-	
	成果指標	NORIKURAウィンターカーニバル 入込人数	人	目標値 実績値	4,000 4,200	4,000 3,800	4,000 -	
	目標	算出根拠等		達成率(%)	105	95	-	
	補足事項							
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
		歳出(千円)(A)			9,644	8,700	7,600	
		財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
			その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
			一般財源		9,644	8,700	7,600	
		コスト指標	受益者1件当たり(円)(A/B)		480	453	380	
受益者			各年イベント入込数(B)	20,083	19,190	20,000		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・市内観光関係者などの直接的なニーズと、市内の他産業関係者の間接的なニーズがある。 ・地域の市民が市民相互の触れ合いと地域産業の振興を実感し、地域づくり意識の高揚につながるイベント開催のニーズがある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	・市が事業主体となるべきものと民間主導で行うべきものの整理が必要
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	B	・天候等による入込人数の増減は考えられるが、イベント開催に対する再検討など、活動内容の有効性についても地域で検討されている。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・イベント実施団体の自主財源確保と、経費節減のための改善工夫に取り組んでいる。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があつた	B	・イベント見直し等による入込者数の減少もあるが、自主運営化または一般予算化に向けて議論されつつあり、ある程度の効果があつた。
			B (1)	ある程度効果があつた		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		6	/	10	→	100点換算	60	点
----	--	---	---	----	---	--------	----	---

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・イベント開催経費の自主財源確保 ・将来のイベントの方向性(一般予算化や民間移行)の検討
--	---

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・地域主体の事業とすべく、特例期間終了を見据え、行政の支援を縮小する必要がある。 ・各種効果について分析を行い、各イベントのあり方について検討する必要がある。
----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・一般予算化する事業と協働のまちづくりで実施する事業との分類を検討していく。
-----------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		95199		スキー大会開催事業	担当課	丹生川支所 地域振興課				内線	
番組										3121	
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算 の	○	A	合併前から実施されているイベント・行事				
	款	9	教育費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業				
	項	5	保健体育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業				
	目	1	体育総務費			D	その他事業				
根拠計画											
市長公約		1	積極的な観光振興を実施します。 ・観光と一体となり消費効果が高い大規模会議や大規模展示会などを、飛騨地域全体で積極的に誘致します。								

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民及び大会参加者	対象者数	850 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	スキー場を利用して、東海社会人スキー大会・乗鞍大回転大会・マスターズスキー大会を開催し市民のスキー技術の向上を図ると共に、冬季就労の場の確保及び地域商業の活性化につなげていく。		
概要	事業の実施手法(手段)	東海社会人スキー大会 300名、乗鞍大回転大会 250名、マスターズスキー大会 300名		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		東海社会人スキー大会、乗鞍大回転大会、マスターズスキー大会の開催				
指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	大会の開催回数	回	目標値	3	3	3
			実績値	3	3	-
			算出根拠等	達成率(%)	100	100
成果指標	東海社会人スキー大会参加者	人	目標値	300	300	300
			実績値	254	225	-
			算出根拠等	達成率(%)	85	75
成果指標	乗鞍大回転大会参加者	人	目標値	250	250	250
			実績値	233	167	-
			算出根拠等	達成率(%)	93	67
成果指標	マスターズスキー大会参加者	人	目標値	300	300	300
			実績値	257	245	-
			算出根拠等	達成率(%)	86	82
			目標値			
			実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-
			目標値			
			実績値			-
	算出根拠等		達成率(%)			-
補足事項						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額
	歳出 (千円) (A)			450	450	450
	財源内訳					
	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源			450	450	450
	コスト指標					
	受益者1件当たり(円) (A／B)			605	706	529
	受益者	市民及び大会参加者数 (B)	744	637	850	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	A	大会参加者の競技練習成果の発揮の場であるとともに、参加者の宿泊等による地域商業の活性化を図ることができることから、ニーズは高い。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	B	各大会の実行委員会が実施しているが、スキー人口等の減少があり、民間だけでは継続が難しい。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B	B	3大会とも参加者は目標を下回っているが、スキー技術の向上、冬季就労の場の確保の目的は成果を上げている。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	B	参加者負担金も徴収しながら、必要最小限の経費で取り組んでいる。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	A	スキー場関係の活性化だけでなく、旅館などの観光関係にも波及効果がある。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	スキー人口が減少している中で、大会参加者の確保が必要である。大会の開催は参加者のスキー技術の向上のみではなく、冬季就労場の確保及び地域の商業の活性化につながっているので、事業の継続をする必要がある。
---------------------------------------	---

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・特例期間終了を見据え、行政の支援を縮小する必要がある。 ・各種効果について分析を行い、スポーツ大会誘致のあり方について検討する必要がある。
----------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・各大会ごとに参加者の確保を検討する。 ・冬季就労の場の提供及び地域の商業の活性化につなげるために事業を継続する必要がある。
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	31199		地域社会福祉推進事業費 (結婚相談特別推進事業)	担当課	丹生川支所 地域振興課		内線
	番付						3121
予算	会計	1	一般会計	特別 置 付 け 算 の		A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	3	民生費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1	社会福祉費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	1	社会福祉総務費			D	その他事業
根拠計画		地域振興計画					
市長公約		4	個人・家庭・地域を大切に社会を築きます。 ・市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業の予算枠を確保します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	地域住民	対象者数	4,491 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	結婚相談事業は、旧丹生川村の総合計画においても重要課題として、ハッピーウエディング大作戦を展開してきた。引き続きこの事業を推進することにより、次世代を担う若者の結婚の機会を拡充し、活力ある地域づくりを目的とする。地域審議会においても強い要望がある。		
概要	事業の実施手法(手段)	・結婚相談協力員5名を配置し、結婚相談所開設日に情報交換を行うとともに、日々の相談(面接、電話、訪問)を実施する。 ・相談を受けた場合、相談者に対する今後の支援等について、相談員と協力員で検討を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・毎月1回相談所の開設 ・結婚相談等述べ活動回数 94件						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	結婚相談日の開設		回	目標値	12	12	12	
				実績値	12	12	-	
成果指標	算出根拠等 実績値/目標値			達成率(%)	100	100	-	
	結婚相談延べ件数		回	目標値	100	100	100	
実績値				103	94	-		
成果指標	算出根拠等 実績値/目標値			達成率(%)	103	94	-	
	結婚成立件数		件	目標値	2	2	2	
実績値				0	0	-		
成果指標	算出根拠等 実績値/目標値			達成率(%)	0	0	-	
				目標値				
実績値						-		
成果指標	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
実績値						-		
成果指標	算出根拠等			達成率(%)			-	
				目標値				
実績値						-		
成果指標	算出根拠等			達成率(%)			-	
	補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			210	210	210		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			210	210	210	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)			2,039	2,234	2,100	
		受益者	結婚相談延べ件数 (B)		103	94	100	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A		地域の連携意識が薄れる中、結婚適齢期者などの情報がないため、協力員の熱心な活動と、身近な協力員から数多くの情報を受けられることにより、ニーズは高い。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A		登録者データを利用して結婚相談員だけで活動していても相談の人数や時間が限られる、十分な対応ができないことから、協力員を交えての相談は有意義である。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B		相談を受け紹介したあと、交際に至る例もあるが、相手があることなので成果とする結婚の実績があがるとは限らない。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A		相談日の開設は月1日であるが、協力員は常時相談等に応じているため、最小限の経費で事業を実施している。	
			B (1)	事業効率化・コスト削減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A		H25年度は婚姻成立実績はなかったが、数件交際に結びついている。相談延べ件数も目標に達している。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・交際へ発展のチャンスを生み出すために、登録者データの飛躍全域拡大に伴い、各相談所との連携を密にして情報提供を行う必要がある。 ・相談所の開設を広く該当者に知ってもらうために、町内会長会議、地元広報誌等でのPRを実施する必要がある。
--	---

(参考)H25事業評価結果(二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
---------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・新体制(高山市・下呂市共同経営)への移行によって飛躍全域に拡大された登録者のデータを活用しながら、協力員ならではのきめ細やかな相談対応により交際への発展を目指す。 ・町内会長会議毎に周知を行う。 ・地元広報誌での相談所開設のPRを継続する。
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		31399		地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)		担当課		丹生川支所 地域振興課		内線	
		専任								3121	
予算	会計	1	一般会計			特別 位置 付け 算の	O	A 合併前から実施されているイベント・行事			
	款	3	民生費					B 一般予算の上乗せとして実施されている事業			
	項	1	社会福祉費					C 終期を定めて実施する事業・単年度事業			
	目	3	老人福祉費					D その他事業			
根拠計画				高山市老人福祉計画							
市長公約		5	医療・福祉を充実させます 地域住民が互いに支えあう仕組みや、緊急時の支援を万全にするため、独居老人、要介護者等への地域福祉体制を整備します。								

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	対象者数	9,751 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	地域を基盤とした老後の社会活動の円滑な展開と町づくりへの高齢者の参画の促進		
概要	事業の実施手法(手段)	高齢社会を支える上で大きな役割を担っている老人クラブに対し、高齢者の生きがいと健康づくり、福祉の向上のために助成することにより、各種活動の育成、支援を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		市連合長寿会に対する支援 ・会員及び各区、単位クラブに対する活動助成 ・事務局人件費に対する助成				
指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	連合長寿会会員数	人	目標値	10,000	10,000	10,000
			実績値	9,584	9,677	-
			達成率(%)	96	97	-
活動指標	連合長寿会単位老人クラブ数	クラブ	目標値	143	139	140
			実績値	139	138	-
			達成率(%)	97	99	-
活動指標	連合長寿会加入率	%	目標値	40	40	40
			実績値	38	37	-
			達成率(%)	95	93	-
算出根拠等	連合長寿会加入者数/65歳以上人口		目標値			
			実績値			-
			達成率(%)			-
算出根拠等			目標値			
			実績値			-
			達成率(%)			-
算出根拠等			目標値			
			実績値			-
			達成率(%)			-
補足事項						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出(千円)(A)		420	420	420	
	財源内訳					
	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		150	149	280	
	一般財源		270	271	140	
	コスト指標	受益者1件当たり(円)(A÷B)		44	43	43
	受益者	丹生川区会員数(4月1日現在)(B)	9,584	9,677	9,751	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B		高齢者が住み慣れた地域で、他の高齢者や住民と交流を持ちながら健康で日常生活を送るための活動として、市民の関心は高く、地域活動にも根付いているが、高齢者のニーズの多様化により加入者は減少傾向にある。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A		市は、老人福祉法(第十条の三第一項)の規定により、老人クラブなどの老人福祉を増進する目的とする事業を行う者の活動の連携及び調整、地域の実情に応じた体制整備に努めなければならないため。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	B		老人クラブ加入者は、減少傾向であるため、役員等により、組織や活動の見直しに取り組んでいる。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A		補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A		長寿会活動に参加することにより、高齢者の健康増進と閉じこもり予防が図れた。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・市域全体として、新規加入者が少なく、連合長寿会会員加入率及び単位クラブの減が課題となっている。健康で生きがいを持って生活するために、地域とのつながりも深めながら、今後一層の充実と活発な取り組みが必要である。
---------------------------------------	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・市域全体としては、会員数・クラブ数は減少傾向にあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、老人クラブ活動費補助金との一本化については、今後の支援のあり方も含めて検討する必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・本補助金を有効に活用するため、老人クラブにおける活動内容の見直しを進めながら事業継続し、組織の育成と活動の支援を行う。
-----------------	--

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		72199		市道未登記用地測量事業	担当課	丹生川支所 基盤産業課		内線
専扶								3142
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 予算 の		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	道路橋りょう費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	道路橋りょう総務費			D	その他事業	
根拠計画		地域振興計画						
市長公約								

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市道未登記地権者	対象者数	127 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	市道未登記路線整理(未登記のまま道路整備した路線の登記整備)		
概要	事業の実施手法(手段)	市道未登記箇所 の確定測量を行い登記関係書類を作成し、所有者からの寄附により道路用地として高山市へ所有権移転登記を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・市道旗鈴乗鞍線の分筆、所有権移転登記 ・市道朴の木平線の分筆、所有権移転登記 ・市道呂瀬金山線の境界立会、測量業務					
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	取組路線数	本	目標値	13	13	13	
			実績値	3	3	-	
	算出根拠等		達成率(%)	23	23	-	
成果指標	用地分筆数・調査(現地測量・公簿類等)筆数	筆	目標値	509	509	509	
			実績値	41	55	-	
	算出根拠等 実績値(分筆累積値)		達成率(%)	8	11	-	
成果面			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出(千円)(A)			14,836	14,801	15,000	
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
		一般財源			14,836	14,801	15,000
	コスト指標	受益者1件当たり(円)(A÷B)			116,819	116,543	118,110
		受益者	市道未登記地権者	(B)	127	127	127

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	・未登記路線を整理することにより、関係地権者の財産を守り、地積整理につながることから、ある程度のニーズは得られている。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・市道であり道路管理者として維持管理する必要があることから、市が主体となって進めるべき事業である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	B	・地権者の世代交代が進む中、所有地の境界等の認識が希薄になってきており、確定するまでに時間を要する。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	・土地の分筆に向けての測量、データ、書類等の作成は専門性が高く、土地家屋調査士への委託が効率的であると考え。 ・相続等の関係人調査が複雑化してきており、業務量が増大してきているため、更なる事業の効率化に向けて委託等の検討が必要である。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・ライフラインとなる道路の維持管理等が必要不可欠なことから、事業を推進することにより、安心して暮らせる地域づくりに貢献する。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		8	/	10	→	100点換算	80	点
----	--	---	---	----	---	--------	----	---

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・総体的には道路管理者として市が進めていく事業として有効であるが、対象路線に係る地権者のみが受益する感があり費用対効果は表れにくいため、市民への理解や重要性の周知が必要である。
--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・平成26年度までに重要路線の未登記処理を完了できるよう積極的に取り組んでいく必要がある。
-----------------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・地元町内会や精通者などとも協議しながら、円滑に事業を推進する。
-----------------	----------------------------------

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		74799		花街道整備事業	担当課	丹生川支所 基盤産業課		内線
		番組						3141
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算の		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7	土木費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	都市計画費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	快適環境整備費			D	その他事業	
根拠計画			地域振興計画					
市長公約		4	個人・家庭・地域を大切に社会を築きます。 日常生活における買い物、通勤、通院等などの移動手段を確保するため、市民の生活を守る公共交通網を整備します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	丹生川地域住民	対象者数	4,491 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	県外来客者及び市民が通行する市道等沿線の環境整備(雑草・支障木除去)により四季折々の美しい自然・快適環境を楽しんでもらう。		
概要	事業の実施手法(手段)	各自治体・個人事業主への委託。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績			各沿線路側等の雑草支障木除去 ①市道等 L=18km ②大規模林道等 L=20km						
指標名				単位	目標・実績	H24	H25	H26	
成果 指標	市道等			km	目標値	35	35	35	
					実績値	37	38	-	
	算出根拠等 L×W				達成率(%)	106	109	-	
成果 面					目標値				
					実績値			-	
	算出根拠等				達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
	算出根拠等				達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
	算出根拠等				達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
	算出根拠等				達成率(%)			-	
					目標値				
					実績値			-	
	算出根拠等				達成率(%)			-	
補足事項									
コスト 面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)				1,410	1,354	1,500		
	財源 内訳	受益者負担(使用料・負担金等)							
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
		一般財源				1,410	1,354	1,500	
	コスト 指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)				305	296	334	
		受益者	丹生川地域住民 (B)			4,629	4,573	4,491	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A		・生活道路の安全確保および美しい景観保全に寄与している。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A		・市が管理する道路であるため。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A		・市民および県内外からの来訪者からも好評である。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A		・必要最小限の経費で実施しており適正である。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A		・実施路線の中にはウルトラマラソンコースもあり、地域内はもとより県内外からの来訪者からも好評であり、毎年効果が表れている。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		10 / 10	→	100点換算	100 点
----	--	---------	---	--------	-------

分析・評価で明らかになった課題 (「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・他の地域とのバランスを考慮し、今後の実施手法について検討する必要がある。
-----------------------------	---------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・住宅が多い地区では、町内会が主導できないか働きかけを行う。
-----------------	--------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94199		花のふるさとづくり事業	担当課	丹生川支所 地域振興課		内線
		番組						3121
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け の 算		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	社会教育総務費			D	その他事業	
根拠計画				地域振興計画				
市長公約		8	豊かな自然環境を守り、環境モデル都市をつくれます。 環境保全に取り組みます。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	各種団体・市民	対象者数	80 団体
	どういう状態にしたいのか(意図)	国道、県道、市道沿いを中心として花飾りを実施し、このことを通じて地域の連帯意識の高揚を図ると共に、町内の環境美化の推進及び高山市へ訪れる多くの観光客の目を楽しませ地域全体のイメージアップを図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	コスモス街道のコスモスの育苗、植栽、栽培管理について高山市連合長寿会丹生川区長寿会に委託。花いっぱい運動については各種団体及び個人の活動で行っている。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・コスモス街道(キバナコスモス) 植栽距離12km ・花いっぱい運動参加団体 61団体、延べ花壇面積 5,600㎡ ・審査会参加団体 69団体						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	コスモス街道植栽距離		km	目標値	12	12	12	
				実績値	12	12	-	
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-	
成果指標	花いっぱい運動参加団体(苗配布団体)		団体	目標値	70	70	61	
				実績値	64	61	-	
	算出根拠等			達成率(%)	91	87	-	
成果指標	審査会参加団体(個人含む)数		団体	目標値	80	80	69	
				実績値	71	69	-	
	算出根拠等			達成率(%)	89	86	-	
成果指標				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
成果指標				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
成果指標				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)			-	
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			6,381	4,356	4,600		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			6,381	4,356	4,600	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)			89,873	63,130	66,667	
		受益者	審査会参加団体数 (B)		71	69	69	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A		町内会の美化意識の向上、地域の連帯感の強化が図られるため、町内会、長寿会、各種団体、各家庭でのニーズが高い。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B		町内の環境美化の推進及び高山市の東の玄関口としてへ訪れる多くの観光客の目を楽しませ高山市のイメージアップにつながっている。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A		植栽距離、栽培管理、市としてのイメージアップに十分成果が上がっている。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A		必要経費は苗、肥料の経費であり、必要最小限で実施している。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A		町内の環境美化の推進及び高山市の東の玄関口としてへ訪れる多くの観光客の目を楽しませ高山市のイメージアップにつながっている。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で 明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なのかを記入)	・高山市の東の玄関口として高山市のイメージアップを図るため事業を継続していく必要があるが、事業規模を維持していくためには予算の確保が必要である。 ・花いっぱい運動参加団体の一部には、会員の高齢化により植栽管理が困難となるケースがある。
--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・「花いっぱい運動」については、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)との整理が必要である。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、助成のあり方・事業費規模などについて検討する必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・「花いっぱい運動」に対しては、当該地域振興予算の他、一般会計による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金)が直接・間接に助成されており、地域振興特別予算の終期も踏まえた助成の在り方を検討するとともに、事業規模などについても検討する。
---------------------	---

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94699		地域芸能文化振興事業 (地域芸能文化活動助成事業)	担当課	丹生川支所 地域振興課		内線
		番組						3121
予算	会計	1	一般会計		特別 位置 付け 算の		A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9	教育費			○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4	社会教育費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	6	文化振興費				D	その他事業
根拠計画			地域振興計画					
市長公約		9	伝統文化を守り、次代へ継承します ・芸術文化の振興を積極的に支えます					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	地域住民	対象者数	4,491 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	丹生川地区社会教育運営委員会が主体となり、文化活動の一環である「文化展」と芸能活動の一環である「芸能祭」を開催し、地域に根づいた芸能文化の振興を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	丹生川地区社教が実施する文化活動の一環である「文化展」と芸能活動の一環である「芸能祭」の開催費用の一部を補助する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績		文化展、芸能祭の開催各1回					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	文化展の開催	回	目標値	1	1	1	
				実績値	1	1	-	
		算出根拠等		達成率(%)	100	100	-	
	活動指標	芸能祭の開催	回	目標値	1	1	1	
				実績値	1	1	-	
		算出根拠等		達成率(%)	100	100	-	
	成果指標	文化展参加人数	人	目標値	450	450	450	
				実績値	350	400	-	
		算出根拠等		達成率(%)	78	89	-	
	成果指標	芸能祭の参加人数	人	目標値	500	500	500	
				実績値	600	650	-	
		算出根拠等		達成率(%)	120	130	-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
実績値						-		
算出根拠等			達成率(%)			-		
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			300	300	300		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			300	300	300	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)			65	66	67	
		受益者	地域住民	(B)	4,629	4,573	4,491	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	地域に根付いた芸能文化に身近に触れられることから市民の強いニーズがあるが、出展者、出演者が固定化、高齢化している。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	芸能文化の振興のため必要である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	A	芸能文化の振興が図られ成果が十分上がっている。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	会場設営や資料作成など会員が行い、コスト縮減に努めている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	文化展の開催や芸能祭の実施など、日頃の学習の成果を発表する場を設けることにより、伝統文化の継承、芸術文化の振興が図られた。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		9	/	10	→	100点換算	90	点
----	--	---	---	----	---	--------	----	---

分析・評価で明らかになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なかを記入)	・地域芸能文化の振興発展に大きく寄与しており今後も支援が必要である。 ・文化展、芸能祭への出展者、出演者が固定化、高齢化しているため、園児、児童、生徒の参加を検討する。
---	---

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。 ・他の事業との関係の整理、助成のあり方・事業費規模などについて検討する必要がある。
-----------------------------	---

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・他地域の芸能文化活動の内容や自主財源に基づく活動内容を参考に助成のありかたについて検討する。 ・小中学校への文化展、芸能祭の開催についてPRをし、児童生徒の意識高揚を図る。
---------------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94699		地域芸能文化振興事業 (丹生川文化ホール自主事業)	担当課	丹生川支所 地域振興課		内線
		番組						3121
予算	会計	1	一般会計		特別 位置 付け 算の		A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	9	教育費			○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	4	社会教育費				C	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	6	文化振興費				D	その他事業
根拠計画			地域振興計画					
市長公約		9	伝統文化を守り、次代へ継承します ・芸術文化の振興を積極的に支えます					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	地域住民	対象者数	4,491 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	著名な芸能人のコンサートや演劇等の公演の機会に触れ、地域住民の芸能文化の振興を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	地域住民が主体となって事業が推進されるよう、丹生川地区社会教育運営委員会への事業補助として実施。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・鎌田實講演会 5月29日 502名 ・爆笑ものまね紅白歌合戦 11月9日 483名						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	自主事業開催回数		回	目標値	2	2	2	
				実績値	2	2	-	
	算出根拠等			達成率(%)	100	100	-	
成果指標	入場者数(延べ人数)		人	目標値	1,000	1,000	1,000	
				実績値	794	985	-	
	算出根拠等			達成率(%)	79	99	-	
成果面				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)		-		
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)		-		
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)		-		
				目標値				
				実績値			-	
	算出根拠等			達成率(%)		-		
	補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			2,000	2,000	2,000		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			2,000	2,000	2,000	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)			432	437	445	
		受益者	地域住民	(B)	4,629	4,573	4,491	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	A	市民は文化芸能に触れる機会を求めている、ニーズが高い。	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	B	市民を対象とした事業であり、他の事業との調整が必要。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげられている	B	B	市内にある類似施設と催し物の内容、開催日の調整をする必要がある。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	A	催し物に係る経費と受益者負担を考えながら事業を展開している。	
			B (1)	事業効率化・コスト削減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	A	文化芸能に触れる機会を設けて、市民の意識を高め芸術文化の振興を支えている。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		8 / 10	→	100点換算	80 点
分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)		・市内に類似施設が数か所あるため催し物の調整を行い、開催日等も検討して市全体のバランスを考慮して実施する必要がある。			

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。 ・文化芸術鑑賞事業との関係の整理、実績や効果の検証を行う必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	・事業収入だけでは自主事業の開催が難しく、市民の希望する質の高い公演等を開催するため催し物の内容、開催日を検討する。
-----------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		94799		文化財標柱等設置事業	担当課	丹生川支所 地域振興課		内線		
		番組						3121		
予算	会計	1	一般会計			特別 位置 付け 算の	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	9	教育費				○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4	社会教育費					C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7	文化財費		D		その他事業			
根拠計画				地域振興計画						
市長公約		9	伝統文化を守り、次代へ継承します。 ・国内外から訪れる多くの観光客に名所旧跡、文化財等を分かりやすく紹介するため、パンフレット、説明番頭の整備や、人と人のつながりを大切に語り部の育成に取り組みます。							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	91,605 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	文化財標柱の設置により、市民に対する市指定文化財の周知を行い、文化財に対する理解と保護意識の高揚を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	丹生川町内に存在する文化財について、高山市の指定文化財標柱を整備し、文化財の周知及び文化財保護の啓発を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		文化財石柱設置 3基						
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26	
成果指標	標柱設置件数		件	目標値	4	6	6	
				実績値	4	3	-	
指標	算出根拠等			達成率(%)	100	50	-	
成果面				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			756	587	900		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			756	587	900	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)			8	6	10	
		受益者	全市民	(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	B	市民、文化財所有者のニーズがある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	市指定文化財の周知及び保護の啓発のために実施している。 高山市周知説明板設置基準に基づき実施している。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	A	文化財の理解と保護意識の高揚に十分効果がある。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	文化財により手法等を検討しコスト軽減を図っている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	標柱の設置により所有者の文化財保護意識の高揚が図られている。
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題 (F)評価にするために何が必要なかを記入)	所有者の中には、盗難等に対する心配から設置を希望しない場合がある。
--	-----------------------------------

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・古い標柱は木製であり、腐食が進んでいるため、文化財の状況確認の中で随時更新していく必要がある。 ・平成26年度には終了する。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	設置を希望しない所有者の承諾を得られるように交渉していく。
-----------------	-------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		95199		地域スポーツ振興事業	担当課	丹生川支所 地域振興課		内線
		番組						3121
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け		A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費		○	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5	保健体育費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1	体育総務費			D	その他事業	
根拠計画			地域振興計画					
市長公約		4	個人・家庭・地域を大切にすることを築きます					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	地域住民	対象者数	4,491 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	誰もが参加できるスポーツ大会を町内で開催することにより、限られた人達だけでなく、普段スポーツ活動をしていない人の参加を促進し、地域のスポーツ振興を図る。スポーツ大会に向けた日々の練習により、健全なからだづくりにつながる。また絆もより一層深めることができる。		
概要	事業の実施手法(手段)	丹生川町内で地域対抗等の体育大会を開催する。春季大会(屋外球技)、夏季大会(屋外競技)、秋季大会(軽スポーツ)、冬季大会(屋内競技・屋外競技) 全13種目		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		13種目のスポーツ大会の開催。					
指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
活動指標	体育大会の開催	種目	目標値	13	13	13	
			実績値	13	13	-	
			算出根拠等	達成率(%)	100	100	-
成果指標	大会延べ参加者数	人	目標値	1,500	1,500	1,500	
			実績値	1,488	1,705	-	
			算出根拠等	達成率(%)	99	114	-
成果面			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
	補足事項						
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
歳出 (千円) (A)		900	900	900			
受益者負担(使用料・負担金等)							
その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源		900	900	900			
受益者1件当たり(円) (A÷B)		194	197	200			
コスト 指標		受益者	地域住民 (B)	4,629	4,573	4,491	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	健康づくり、地域の連帯感から色々な種目に幅広く住民が参加できることからニーズは高い。	
			B (1)	ある程度のニーズがある			
			C (0)	ニーズが低い			
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	丹生川地区社会教育運営委員会が事業主体となり丹生川全体を掌握して実施している。	
			B (1)	一部見直しが必要である			
			C (0)	市が実施する必要性が低い			
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	A	各種大会の参加者も多く成果が十分上がっている。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている			
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	経費節減に努めている。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	年間を通して種目ごとに大会を開催することによって、地域住民の連携と健全なからだづくりが図られた。	
			B (1)	ある程度効果があった			
			C (0)	あまり効果が見られなかった			

合計		9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・地域住民のスポーツ振興を継続していくために、自主財源(受益者負担)での開催を検討する必要がある。 ・幅広く参加者を集めるためのPRや運営を工夫する必要がある。
--	---

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
----------------------	--

課題等に対する今年度の対応状況	・自主財源(受益者負担)での開催を検討する必要がある。 ・公民館役員を通じ、幅広い年代層を募集する。
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		21899		旧ホテル乗鞍解体整備事業	担当課	丹生川支所 地域振興課		内線
		番付						3111
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算の	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	1	総務管理費		○	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	8	財産管理費		D	その他事業		
根拠計画				地域振興計画				
市長公約		10	市民のための行政改革を断行します。 市の施設や支所の改修利用を進めるほか、遊休施設・土地など有効活用を行います。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	特定対象者なし	対象者数	0 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	使用されていない構築物・建物等の処分。		
概要	事業の実施手法(手段)	不要構築物、建物等の処分解体を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績							
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26
成果指標	旧ホテル乗鞍内の備品等の処分		件	目標値	1		
				実績値	1		-
	算出根拠等			達成率(%)	100		-
成果指標	構築物、建物等の処分		件	目標値			1
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
成果面				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
補足事項							
使用されていない構築物、建物等の処分							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出 (千円) (A)			1,123	0	21,900	
	財源内訳						
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			1,123	0	21,900	
	コスト指標						
	受益者1件当たり(円) (A÷B)						
	受益者	(B)					

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	評価対象外	平成26年度新規事業	
			B (1)	ある程度のニーズがある			
			C (0)	ニーズが低い			
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	評価対象外	平成26年度新規事業	
			B (1)	一部見直しが必要である			
			C (0)	市が実施する必要性が低い			
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	平成26年度新規事業	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている			
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	平成26年度新規事業	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	評価対象外	平成26年度新規事業	
			B (1)	ある程度効果があった			
			C (0)	あまり効果が見られなかった			

合計		/	→	100点換算	評価対象外	点
----	--	---	---	--------	-------	---

分析・評価で明らかにになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なかを記入)	
--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	
---------------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	O	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	O	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		62499		平湯峠若山牧水歌碑周辺整備事業	担当課	丹生川支所 基盤産業課		内線	
番組								3131	
予算	会計	1	一般会計			特別 位置 付け 算の	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6	商工費				B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2	観光費				○	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	自然公園費	D	その他事業				
根拠計画				地域振興計画					
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客および市民	対象者数	1,650,000 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	平湯峠「若山牧水歌碑」周辺の整備		
概要	事業の実施手法(手段)	平湯峠「若山牧水歌碑」周辺の整備、平湯峠の説明看板の設置		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績							
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	平湯峠「若山牧水歌碑」周辺の整備	件	目標値			1	
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
				目標値				
				実績値			-	
		算出根拠等		達成率(%)			-	
	補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			0	0	1,300		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源					1,300	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)					1	
		受益者	観光客および市民 (B)				1,650,000	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	評価対象外	H26新規事業	
			B (1)	ある程度のニーズがある			
			C (0)	ニーズが低い			
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	評価対象外	H26新規事業	
			B (1)	一部見直しが必要である			
			C (0)	市が実施する必要性が低い			
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	H26新規事業	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている			
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	H26新規事業	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	評価対象外	H26新規事業	
			B (1)	ある程度効果があった			
			C (0)	あまり効果が見られなかった			

合計		/	→	100点換算	評価対象外	点
----	--	---	---	--------	-------	---

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	
-----------------	--

次年度の実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		62499		乗鞍公園線望岳台展望台整備事業	担当課	丹生川支所 地域振興課		内線
番組								3111
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算の	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	6	商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	2	観光費		○	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	3	自然公園費		D	その他事業		
根拠計画				地域振興計画				
市長公約		1	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。 ・高山市を訪れる年間観光客500万人、外国人観光客30万人を目指します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	観光客及び市民	対象者数	1,650,000 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	乗鞍公園線望岳台展望台の修繕		
概要	事業の実施手法(手段)	乗鞍公園線望岳台展望台の危険箇所の修繕		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績							
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
	活動指標	乗鞍公園線望岳台展望台の修繕		件	目標値			1
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
	補足事項							
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
歳出 (千円) (A)			0	0	1,200			
財源内訳		受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源					1,200	
コスト指標		受益者1件当たり(円) (A／B)					1	
		受益者	観光客及び市民 (B)				1,650,000	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	評価対象外	平成26年度新規事業		
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	評価対象外	平成26年度新規事業		
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	平成26年度新規事業		
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	平成26年度新規事業		
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	評価対象外	平成26年度新規事業		
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		/	→	100点換算	評価対象外	点
----	--	---	---	--------	-------	---

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	
-----------------	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	O	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	O	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名	81399		地域消防施設振興事業	担当課	丹生川支所地域振興課		内線
	番組				3112		
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算の		A	合併前から実施されているイベント・行事
	款	8	消防費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業
	項	1	消防費			O	終期を定めて実施する事業・単年度事業
	目	3	消防施設費			D	その他事業
根拠計画							
市長公約							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	地域住民	対象者数	4,491 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	不要となっている消防団の火の見櫓を解体撤去する。		
概要	事業の実施手法(手段)	解体撤去工事		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績						
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	成果指標	解体撤去する火の見櫓	基	目標値			3
		実績値				-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
	補足事項						
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
歳出 (千円) (A)		0	0	3,000			
受益者負担(使用料・負担金等)							
その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源		3,000					
コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/B)		668				
	受益者	地域住民 (B)	4,491				

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	平成26年度新規事業
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	平成26年度新規事業
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	平成26年度新規事業
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	平成26年度新規事業
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	平成26年度新規事業
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	/	→	100点換算	評価対象外 点
----	---	---	--------	---------

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	
-----------------	--

次年度の実施方針 (担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		91499	中学校部活動生徒送迎事業		担当課	丹生川支所 地域振興課		内線
		福祉						3121
予算	会計	1	一般会計		特別 位置 付け 算	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9	教育費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	教育総務費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3	スクールバス管理費			O	その他事業	
根拠計画		地域振興計画						
市長公約		7	将来を担う子どもを守り育てます。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	丹生川中学校生徒	対象者数	35 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	土曜日に部活動用の生徒送迎バスを運行することにより、遠距離の生徒も部活動に参加できるようにする。		
概要	事業の実施手法(手段)	土曜日に行う部活動用にスクールバスの運行を行う。東部地区、荒城地区の2台運行。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績		運行回数 24回、1日の利用生徒数 32名					
	指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	運行回数		回	目標値	30	30	30
					実績値	30	24	-
		算出根拠等			達成率(%)	100	80	-
	成果指標	1日の利用生徒数		人	目標値	35	32	35
					実績値	35	32	-
		算出根拠等			達成率(%)	100	100	-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
		算出根拠等			達成率(%)			-
					目標値			
					実績値			-
算出根拠等				達成率(%)			-	
補足事項								
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額		
	歳出 (千円) (A)			396	334	410		
	財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
		その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
		一般財源			396	334	410	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A／B)			377	435	390	
受益者		延べ利用生徒数 (B)		1,050	768	1,050		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)				
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	生徒、保護者から運行の確保が強く求められている。。				
			B (1)	ある程度のニーズがある						
			C (0)	ニーズが低い						
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	スクールバスと同一の運行経路であり、土曜日で運休車両となっているスクールバスを活用するため、スクールバス運行者である市が事業主体となることが最も効率的である。				
			B (1)	一部見直しが必要である						
			C (0)	市が実施する必要性が低い						
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	A	全生徒が等しく部活動に参加することができる。				
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている						
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である						
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	最小限の運行回数、運行方法で十分な効果を得られている。				
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている						
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である						
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	均衡ある教育環境の整備を図るうえで大いに効果があった。				
			B (1)	ある程度効果があった						
			C (0)	あまり効果が見られなかった						
合計			10	/	10	→	100点換算	100点		
分析・評価で明らかになった課題 (「A」評価にするために何が必要なのかを記入)										
(参考) H25事業評価結果 (二次評価)		・スクールバスとのらマイカー等の公共交通の効率的な運行を含め、全市的に対応を検討する必要がある。								
4 今後の方向性(Action)										
課題等に対する今年度の対応状況		・機能低下にならないように公共交通の利用も含め検討する。								
次年度の実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	O	H26完了予定
二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	O	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		92299		地域小学校教育振興事業 (南知多町交流推進事業)	担当課	丹生川支所 地域振興課		内線
		専任						3121
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算の	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	9	教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	2	小学校費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	2	教育振興費		○ D	その他事業		
根拠計画		地域振興計画						
市長公約		8	豊かな自然を守り、環境モデル都市を作ります。 ◎環境教育を推進します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	丹生川小学校4年生	対象者数	38 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	環境の異なる子供たちとの交流や地元の人達の生活を体験することにより、児童の視野を広げ豊かな人間性を育む。		
概要	事業の実施手法(手段)	平成3年度より南知多町の小学校と交流を実施。 ①南知多町の小学校との交流 丹生川小学校4年生 38名。 ②地域生活体験、地引網等の体験。		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		参加児童数 49名					
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26
活動指標	実施回数	回	目標値	1	1	1	
			実績値	1	1	-	
成果指標	算出根拠等		達成率(%)	100	100	-	
成果指標	参加児童数	人	目標値	63	49	38	
			実績値	63	49	-	
成果指標	算出根拠等		達成率(%)	100	100	-	
成果面			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
	算出根拠等		達成率(%)			-	
	補足事項						
	コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額
		歳出 (千円) (A)			600	600	600
財源内訳							
受益者負担(使用料・負担金等)							
その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源			600	600	600		
コスト指標		受益者1件当たり(円) (A÷B)		9,524	12,245	15,789	
	受益者	参加児童数 (B)	63	49	38		

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点		評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	A	小学校生活において初めての外泊研修であり、参加児童の視野を広げ成長を促す行事であることから、児童、保護者のニーズが高い	
			B (1)	ある程度のニーズがある				
			C (0)	ニーズが低い				
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	B	B	他地域で実施している類似事業ごとに内容が異なっており、全市的な均衡を図る必要がある。	
			B (1)	一部見直しが必要である				
			C (0)	市が実施する必要性が低い				
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	A	児童の視野を広め豊かな人間性を育てている。	
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている				
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である				
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	A	自己負担も行いながら必要最小限の補助範囲としている。	
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている				
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である				
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	A	異文化に触れ豊かな人間性が育まれた。	
			B (1)	ある程度効果があった				
			C (0)	あまり効果が見られなかった				

合計		9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題 (F)評価にするために何が必要なかを記入)	他地域で実施している類似事業ごとに内容が異なるため、全市的な均衡を図り、参加者負担による実施を検討する必要がある。
--	---

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。
-----------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	参加者負担も含め学校行事として実施するなど、今後の実施方法を検討する。
-----------------	-------------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		20999		地域振興助成事業	担当課	丹生川支所 地域振興課		内線
		番組						3111
予算	会計	1	一般会計		特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費			B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費			C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画費			O	その他事業	
根拠計画		地域振興計画						
市長公約		合併のメリットを生かしつつ、それぞれの地域の特性をのびします。 ・地域の個性あるまちづくりと、市民の一体感を創るため、地域が手を取り合って取り組む活動に支援します。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	地域住民	対象者数	4,491 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域住民の連帯感を強化することができる ・自主的に働く人材を育成することができる ・地域の課題を解決することができる		
概要	事業の実施手法(手段)	・地域住民が自主的、主体的に取り組む公共性の高い地域づくり事業に対し補助金を交付する		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・町内会連合会、地域審議会において補助制度を周知し、制度の利用を促進 ・各団体、町内会等より申請があった事業に対し運営の指導等を行い、15件の事業に対し補助					
指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26	
成果面	成果指標	補助対象事業数	件	目標値	10	10	10
				実績値	16	15	-
	算出根拠等			達成率(%)	160	150	-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
				目標値			
				実績値			-
	算出根拠等			達成率(%)			-
	補足事項						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出 (千円) (A)			3,617	4,434	5,000	
	財源内訳						
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			3,617	4,434	5,000	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A÷B)			781	977	1,113
	受益者	地域住民 (B)		4,629	4,537	4,491	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	申請団体が自主的に実施する事業に対し、財政的な負担を軽減することができるためニーズはある。
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	終期は決まっている事業であり、地域住民の自主性、主体性を育む意味から市が事業主体であることは妥当である。
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあげている	A	連合町内会長会における度重なる補助制度の周知、及び手引きの作成などにより目標を上回る件数を助成し成果が上がっている。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	A	申請時に十分な精査と指導を行い、適正な補助に努めている。
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	地域住民が自主的に計画し、地域が手を取り合って取り組む活動を支援することにより、課題の解決、地域連帯感の強化に効果がある
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計		10	/	10	→	100点換算	100	点
----	--	----	---	----	---	--------	-----	---

分析・評価で明らかにになった課題 (「A」評価にするために何が 必要なかを記入)	
--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査しながら27年度以降の対応について検討する必要がある。
-----------------------------	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する 今年度の対応状況	・年度当初に開催した連合町内会長会において、具体的な申請書類作成手順の周知を図り、利用を促す。終期を目前に控えていることも踏まえ、申請前の事前相談にも応じ、地域住民の活動として機能するような事業運営の指導、自主的な活動となるよう指導を行う。
---------------------	--

次年度の実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名		20999		地域要望対応事業	担当課	丹生川支所 地域振興課		内線
		番組						3111
予算	会計	1	一般会計	特別位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	9	企画費		O	その他事業		
根拠計画				地域振興計画				
市長公約		合併のメリットを生かしつつ、それぞれの地域の特性をのびします。 ・地域の個性あるまちづくりと、市民の一体感を創るため、地域が手を取り合って取り組む活動に支援します。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	地域住民	対象者数	4,491 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	・安全、安心、快適な住環境を作ることができる ・地域住民からの要望に即応することができる		
概要	事業の実施手法(手段)	・市道、農道、水路等の公共施設の軽微な補修要望などに迅速に対応する		

2 事業の推移・結果(Do)

H25の実績		・緊急に対応すべき事業や町内要望に対応して、道路修繕など11事業を実施					
指標名			単位	目標・実績	H24	H25	H26
成果面	成果指標	実施件数	件	目標値	10	10	10
		実績値		12	11	-	
		算出根拠等		達成率(%)	120	110	-
			目標値				
			実績値			-	
		算出根拠等	達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
		算出根拠等	達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
		算出根拠等	達成率(%)			-	
			目標値				
			実績値			-	
		算出根拠等	達成率(%)			-	
補足事項							
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
	歳出 (千円) (A)			10,101	9,392	13,700	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			10,101	9,392	13,700	
	コスト指標	受益者1件当たり(円) (A/ B)		2,182	2,054	3,051	
		受益者	地域住民 (B)	4,629	4,573	4,491	

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目		評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)	
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A		地域内の補修等の要望が多く、現地確認を行いながら事業を実施している。
			B (1)	ある程度のニーズがある			
			C (0)	ニーズが低い			
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A		市が管理する市道、農道、水路等の補修である。
			B (1)	一部見直しが必要である			
			C (0)	市が実施する必要性が低い			
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A		要望等に対し、素早い対応ができています。
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている			
			C (0)	目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である			
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B		修繕事業として最小限の費用で効果が上がるような設計に取り組んでいる
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている			
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である			
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A		住民からの要望に迅速に対応することができ、安全、安心、快適な住環境を提供できている
			B (1)	ある程度効果があった			
			C (0)	あまり効果が見られなかった			

分析・評価で明らかにになった課題 (「A」評価にするために何が必要なかを記入)		改良工事を含めた視点での対応が望まれる						
---	--	---------------------	--	--	--	--	--	--

(参考) H25事業評価結果 (二次評価)	平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査しながら27年度以降の対応について検討する必要がある。						
--------------------------	--	--	--	--	--	--	--

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	地域審議会、連合町内会を早期に開催し地域要望の早期把握に努めている。今後も要望に対し迅速に対応する。						
-----------------	--	--	--	--	--	--	--

次年度の 実施方針 (担当課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)		維持・改善		拡大		縮小		廃止の検討	○	H26完了予定

平成26年度事業評価シート(地域振興特別予算)

事業名			土地借上料	担当課	丹生川支所		内線
	番組						
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け 算の		A 合併前から実施されているイベント・行事	
	款				○ B 一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項				C 終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目				D その他事業		
根拠計画							
市長公約							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)		対象者数	
	どういう状態にしたいのか(意図)	施設用地の借上		
概要	事業の実施手法(手段)	市の基準単価を上回る土地借上料の支払い		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H25の実績						
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	施設用地借上面積	㎡	目標値	1,054,799	1,054,535	1,054,535
		実績値		1,054,799	1,054,535	-	
	算出根拠等	達成率(%)	100	100	-		
		成果指標	基準達成施設件数	件	目標値	5	4
	実績値		1		0	-	
	算出根拠等	達成率(%)	20	0	-		
			目標値				
	算出根拠等		実績値			-	
			達成率(%)			-	
			目標値				
		算出根拠等	実績値			-	
			達成率(%)			-	
			目標値				
	算出根拠等		実績値			-	
			達成率(%)			-	
	補足事項						
	コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 予算額	
		歳出(千円)(A)		9,645	6,906	5,308	
受益者負担(使用料・負担金等)							
その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源		9,645	6,906	5,308			
コスト指標		受益者1件当たり(円)(A/B)					
	受益者	(B)					

3 分析・評価(Check) ※平成25年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	施設の継続的営業のための土地借上げ料であるため。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	施設の継続的営業のための土地借上げ料であるため。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	評価対象外	施設の継続的営業のための土地借上げ料であるため。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	市基準額での土地借上げ料に近づくよう継続して交渉を行っている。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	施設の継続的営業のための土地借上げ料であるため。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	1 / 2	→	100点換算	50 点
----	-------	---	--------	------

分析・評価で明らかにになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	市の基準に近づくよう継続的な単価交渉を行っているが、地域の理解を得つつ慎重に交渉する必要がある。
--	--

(参考) H25事業評価結果(二次評価)	市の基準に近づくよう単価交渉を継続する
----------------------	---------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	市の基準に近づくよう単価交渉を進めて行くとともに、事業経費と受益者負担金との不均衡を改善する方法として、使用料金の見直しの検討や、今後の施設の在り方を検討する
-----------------	---

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	H26完了予定